

# 命の尊と訴える

南九州市

## 平和へのメッセージ from 知覧

【鹿児島総局】南九州市市制施行5周年記念「平和へのメッセージfrom知覧～第23回スピーチコンテスト」(南九州市主催)は15日、同市の知覧文化会館で開かれ、奄美から出場した中学生の部の山田杏優さん(12)＝和泊町立城ヶ丘中学校1年＝と高校生の部の田中由紀さん(15)＝瀬戸内町、県立古仁屋高校1年＝がともに優秀賞を受賞した。

「平和へのメッセージfrom知覧」第23回スピーチコンテストで優秀賞を受賞した(左から)山田さん、田中さん  
15日、南九州市知覧町郡



## 山田さん(城ヶ丘中)田中さん(古仁屋高)が優秀賞

「あした いのちかがやけ」をテーマにする同スピーチコンテストは、旧知覧町時代の1990年に始まった。中・高生から一般まで「命の尊さ・平和の大切さ」を題材にした作品を公募し、平和

へのメッセージを発信している。

今回は県内外から中学生の部1234点、高校生の部2059点、一般の部134点、南九州市内対象の小学生の部552点の計3979点の応募があった。

り、昨年を58点上回った。中学生一般の部で1・2次の審査を通過した12歳から82歳までの各4人の計12人が本選のスピーチコンテストに出場した。

題で発表。「殺す」や「死ね」など命を大切にしない言葉を使う子どもたちに対し、「死にたくなくても死んでしまつ人が世界にはたくさんいる」と戒める消防士の父親の教えに学び、「一人一人に優

しく接して一人でも多くの人に幸せになってもらう。この一瞬一瞬を大切に生きていきたい」と述べた。

高校生の部の田中さんは、事故に遭い、幼くして亡くなった妹が残してくれた「命の尊さ」という教訓をテーマに発表した。「一つの命が消えるということが、残された人たちに想像以上の悲しみと苦しみを残すことを初めて知った」と述べ、「たった一つしかない命を大切にしたい」という妹の魂の叫びを分かっしてほしい」と訴えた。

の山田優希さん、一般の部で瀬戸内町の若林京子さんも選ばれた。「五体不満足」の著者で、スポーツライターの乙武洋匡氏が「チャレンジ精神を忘れずに」と題して記念講演した。

最優秀賞は、小酒史織さん(鹿児島玉龍中3年)、木田夕菜さん(鹿児島玉龍高1年)、長坂隆雄さん(無職、千葉県船橋市)の3人で、いずれも戦争の悲惨さと平和の大切さをアピールした。

2次審査まで進んだ公募者の中から、入選者に中学生の部で和泊町立城ヶ丘中学校3年